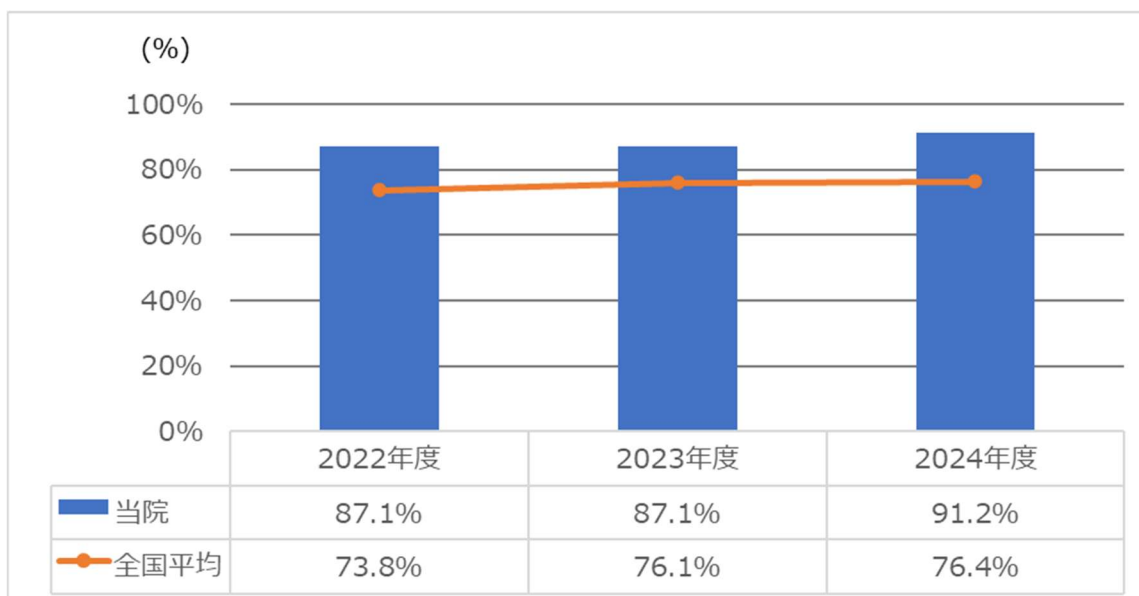


指標1 脳梗塞(TIA 含む)の診断で入院し、入院 2 日目までに抗血小板療法あるいは一部の抗凝固療法を受けた症例の割合



#### <定義>

分子	分母のうち、入院 2 日目までに抗血小板療法もしくは抗凝固療法(ワルファリン、ヘパリンを除く)を受けた症例
分母	18 歳以上の脳梗塞か TIA の診断で入院した症例
期間	2021 年度～2024 年度(1年毎に集計)
対象	上記期間の退院患者

#### <解説>

脳梗塞の治療では、原因に応じて血を固まりにくくする薬を早期に使うことが、再発や悪化を防ぐうえで重要です。入院後早い段階で適切な治療が行われているかは、安全で質の高い医療が提供されているかを示す大切な指標になります。

※ 本データは厚生労働省提出用のDPCデータを基に作成されています。また、全国平均の値については、当院が参加している「医療の質と経済性に関する実態調査【京都大学大学院 QIP 事業】」における「医療の質の指標」の計測結果(事業に参加する全国の病院の平均値)を用いています。

#### 【参考 URL】

<http://www.kch.kagoshima.jp/about/qip.html>(当院の QIP 参加について)

<http://med-econ.umin.ac.jp/QIP/acts.html> (QIP における計測結果)